

平成 27 年度知床世界自然遺産地域
長期モニタリング評価
(科学委員会担当)
(案)

<評価項目>

- No. 20 ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査
- No. 23 シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査
- No. 24 年次報告書作成による事業実施状況の把握
- No. 25 年次報告書作成等による社会環境の把握

平成 29 年 2 月

知床世界自然遺産地域科学委員会

(評価者：科学委員会)

モニタリング項目	No. 20 ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査		
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所、斜里町、羅臼町、知床財団		
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	知床半島全域にて、ヒグマの目撃情報や出没情報、被害発生情報をアンケートや通報などにより収集。		
評価指標	出没及び被害発生の数。ウトロ・羅臼市街地に出没又は出没の恐れのあるヒグマの駆除数。		
評価基準	参考資料（基準なし）		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	<p>【目撃・出没状況】 斜里町及び羅臼町における平成27年度のヒグマ目撃件数は、それぞれ1,487件及び313件であり、両町ともに平成24年度の大量出没年に次ぐ件数の多さとなった。 国立公園及び鳥獣保護区におけるヒグマの目撃件数は斜里町で1,301件、羅臼町で255件であった。</p> <p>【人為的死亡個体数】 ヒグマの人為的死亡個体数は斜里町で49頭（有害捕獲34頭、狩猟13頭、事故死2頭）、及び羅臼町で19頭（有害捕獲17頭、狩猟1頭、事故死1頭）の計68頭と、過去最多となった。</p> <p>【被害発生状況】 両町においてヒグマによる人身事故は報告されなかった。</p>		
今後の方針	引き続き両町におけるヒグマ目撃・出没状況及び被害発生状況等の情報収集と整理を行う。 カメラマンによる人馴れ及び釣り人による非意図的な餌付けが進む恐れがあるため、引き続き周知に努める。 「知床半島ヒグマ保護管理方針」は平成24年3月に策定され、第1期の計画期間が平成28年度末までとなっており、平成29年度より新計画である「知床半島ヒグマ管理計画」の運用を開始予定。		

※「今後の方針」には、評価を踏まえた対応方針（例：現状のモニタリングを継続、モニタリング項目の追加、〇〇事業の実施 等）を記載

1. モニタリングの目的

ヒグマ出没状況、被害発生状況を継続的にモニタリングすることにより、原生的な自然環境の保全と、地域の主要な産業である観光を始めとするレクリエーション利用との両立が図れているのかを把握する。

2. 評価手法（調査の手法＋データの項目）

ヒグマ出没状況は、斜里側においては観光客などによるヒグマ目撃情報をアンケート形式で随時収集することによって把握した。羅臼側においては、国立公園区域外も含む町内全域のヒグマ出没に関する通報ルート（町役場経由、主に地元住民が目撃・通報）による情報提供が主体のため、アンケート以外にそれらも含めた。アンケート用紙はヒグマを目撃した場所、日時、状況及び個体の特徴などを記入するもので、知床国立公園内にある主要な施設（知床自然センター、鳥獣保護区管理センター、知床世界遺産センター、知床五湖フィールドハウス、木下小屋、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス）に配置されている。アンケートは電話や口頭でヒグマ目撃情報を入手した場合や偶然ヒグマを目撃した場合にも記録し、地区別に集計した。

4. 評価年度の調査結果

○斜里町及び羅臼町における平成 27 年度のヒグマ目撃件数は、それぞれ 1,487 件及び 313 件であり、両町ともに平成 24 年度の大量出没年に次ぐ件数の多さとなった。

国立公園及び鳥獣保護区におけるヒグマの目撃件数は斜里町で 1,301 件、羅臼町で 255 件であった。(表 1)

○ヒグマの人為的死亡個体数は斜里町で 49 頭（有害捕獲 34 頭、狩猟 13 頭、事故死 2 頭）、及び羅臼町で 19 頭（有害捕獲 17 頭、狩猟 1 頭、事故死 1 頭）の計 68 頭と、過去最多となった。(図 3)

○ミズナラの堅果個数および重量の推移から平成 27 年度は、不作年であった。(図 6)

表 1：知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区における地区別・月別のヒグマ目撃件数
(平成 27 年 3 月 12 日～平成 28 年 2 月 29 日)

地区区分	月												総計
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
斜里側													
幌別・岩尾別地区	37	49	49	109	210	257	79	54	22	0	0	0	866 (+361)
知床五湖園地地区	0	2	16	29	56	27	15	7	1	0	0	0	153 (+107)
イダシュベツ・カムイワッカ地区	0	0	0	38	26	19	14	14	3	0	0	0	114 (+76)
知床連山登山道地区	0	1	1	0	7	23	3	0	0	0	0	0	35 (+25)
知床横断道地区	0	0	9	27	30	28	1	9	1	0	0	0	105 (+61)
知床岬地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (±0)
幌別川ーオベケブ川地区	3	5	0	4	3	7	3	3	0	0	0	0	28 (-32)
小計	40	57	75	207	332	361	115	87	27	0	0	0	1,301 (+598)
羅臼側													
ルサー知床岬地区	0	1	3	16	33	56	14	1	0	0	0	0	124 (+87)
湯ノ沢町ー知床岬地区	0	2	1	4	21	17	2	3	0	0	0	0	50 (+37)
羅臼市街地北側ー岬町地区	1	3	10	9	27	18	11	2	0	0	0	0	81 (+53)
小計	1	6	14	29	81	91	27	6	0	0	0	0	255 (+177)
総計	41	63	89	236	413	452	142	93	27	0	0	0	1,556 (+775)

※ () 内は前年度との比較

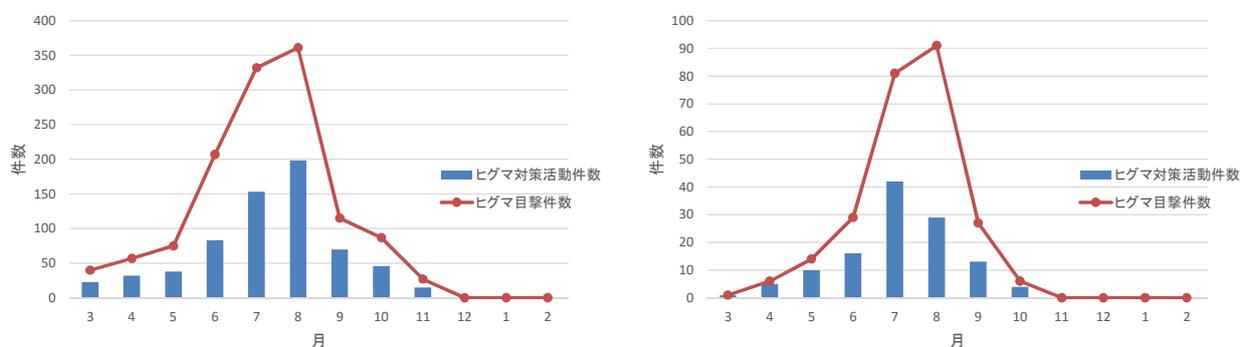


図 4：斜里町（左）および羅臼町（右）のヒグマ目撃と対策活動の月別件数（平成 26 年 3 月～平成 27 年 2 月）

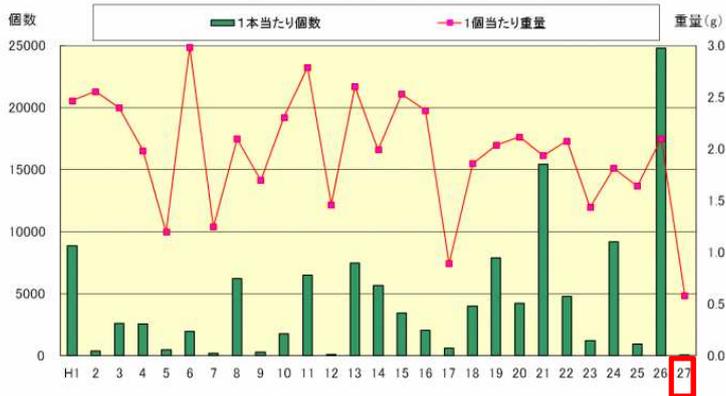


図6：27年度ミズナラ堅果結実調査結果（どんぐり調査）堅果個数及び重量推移（北海道森林管理局実施）

◎人身事故

平成 27 年度における斜里町、羅臼町のヒグマによる人身事故報告はなかった。

◎危険事例

○斜里町

- 1) 4 月 16 日にウトロ香川(旧自然村) で単独のヒグマが住宅の窓をのぞき込んだという通報があった。現場到着時には既にヒグマの姿はなかった。
- 2) 6 月 3 日、真鯉の国道沿いでヒグマと乗用車の接触事故があり、ヒグマが手負いの状態となった。その後、警察が国道を一時閉鎖して駆除となった。
- 3) 6 月 13 日、知床横断道路でヒグマが自転車を追いかけるという極めて危険な状況が発生した。事故には至らなかった。
- 4) 6 月 16 日、真鯉でヒグマの交通事故死体が発見される。事故発生は 15 日夜と推定された。
- 5) 6 月 28 日、ウトロのコンビニエンスストアで深夜に単独ヒグマが目撃される。
- 6) 6 月 13、22、26 日に岩尾別でヒグマが車両に接近・威嚇突進する事例が発生。
- 7) 7 月 5 日、岩尾別でヒグマが車両を叩く事例が発生。怪我人はなし。
- 8) 7 月 7 日、岩尾別温泉道路でバイクを追いかける単独ヒグマの情報あり。
- 9) 7 月 11 日、知床峠付近で自転車と親子ヒグマが近距離で遭遇。事故には至らず。
- 10) 7 月 13 日、日の出の商店の空き瓶置き場の瓶がヒグマによって一部倒される。
- 11) 7 月 17 日、知床横断道路で親子ヒグマ (09B06) が停車している乗用車に近づき臭いを嗅ぐ事例が発生。
- 12) 7 月 18 日、知床横断道路、知床公園線でヒグマがバイクや車に威嚇突進する事例が発生。
- 13) 7 月 26 日、幌別橋付近でヒグマ (09B06) が乗用車に足をかけ揺する事例が発生。
- 14) 7 月 29 日、幌別地区で車を追いかける単独ヒグマの目撃あり。
- 15) 8 月 2 日、エゾシカファームでシカ用のエンジンがヒグマに食べられる。
- 16) 8 月 6 日、フレペの滝遊歩道内でヒグマが出没し、利用者の退出中にヒグマ (CP) がシカを追いかけて、人の列の間を通過する事例が発生。
- 17) 8 月 13 日、知床横断道路で親子ヒグマ (09B06) が出没し、子の 1 頭が車に前足をかけてのぞき込む事例が発生。
- 18) 8 月 13 日、知床連山の三ツ峰野营地テントがヒグマに破かれる事例が発生。テントは無人で食糧等は入っていなかった。
- 19) 8 月 14 日、ウトロ東の沿岸をヒグマ (CP) が泳いでウトロ漁港方面に移動する事例が発生。観光船に協力を仰ぎ港への侵入を阻止。ヒグマを幌別川まで押し戻す。その間、国道沿いに大渋滞が発生し、警察に交通整理の協力を要請。
- 20) 8 月 23 日、エゾシカファームの解体場のシャッターがヒグマに壊され、シカの残滓を荒らされる事例が発生。同日の夕方に駆除態勢をとるが、捕獲に至らず。
- 21) 8 月 24 日、ウトロ西で夜間ヒグマの目撃情報があり、現場を調査中に単独ヒグマを目視。ヒグマは山側へ逃げロスト。翌早朝、パトロールを実施したがヒグマの姿なし。糞から採取した遺伝子より、ルシャヤ羅臼を広域的に行動しているオス (MA) と判明。その後、この個体は 9 月 1 日にウトロ高原農地で駆除されたことが遺伝子から判明。
- 22) 8 月 30 日、岩尾別孵化場の電気柵内にヒグマが侵入。住宅のガレージ内にも侵入し、移動後に緊急駆除となる (CP)。
- 23) 9 月 9 日、町民公園パークゴルフ場内でヒグマの足跡が見つかる。役場と猟友会が付近を捜索したがヒグマは確認されず。

- 24) 9月9日、ウトロ中島で子グマの目撃情報あり。9月6日に小中学校のグラウンドを走る子グマがいたとの情報あり。翌日、ペレケ川沿いで0才2頭を発見し駆除。
- 25) 9月13日、エゾシカファームに常習的に侵入した個体が駆除となる(DF)。
- 26) 9月29日、ウトロ市街地内のペレケ川で単独ヒグマを発見し駆除(EZ)。体重345kgのオス成獣であった。
- 27) 10月15日、ウトロ市街地内に0才2頭連れ親子が侵入。最終的に野営場側のフェンスを乗り越え逃走。
- 28) 10月18日、幌別川河口で釣り人がヒグマに荷物を荒らされる事例が発生。現場に執着している単独ヒグマ(EX)を危険と判断し駆除。
- 29) 10月18日、幌別川河口で単独ヒグマが出没し、釣り人の放置したサケを採食する事例が発生。追い払い中に実弾が誤射され、ヒグマ手負い状態となる。危険と判断し緊急駆除(SZ)。
- 30) 10月19日、ウトロ西の国道上で夜間、単独ヒグマが目撃される。ヒグマは海岸へ逃走し、その後の行方は不明。ヒグマには耳標が付いていた。
- 31) 11月10日、ウトロ東でヒグマ出沒場所に大量の魚ゴミを発見し、回収。注意看板を設置。

○羅臼町

- 1) 7月1、4日に知床峠付近で一般車両が親子グマ(親ヒグマID:08B14)に威嚇突進を受けた。当該親子は斜里側で自転車を追いかけた親子と同一の可能性があった。
- 2) 7月21日、深夜にオッカバケ川右岸で一般住宅のゴミが荒らされる被害が発生した。空のゴミ箱が持ち去られ、翌日の深夜には少し離れた場所で木箱に入った生ごみが持ち去られた。8月4日、加害個体と考えられるヒグマが有害捕獲となった。
- 3) 8月17日、知昭町の水産加工場敷地内にある汚水槽が荒らされる被害が発生した。汚水槽の上に積まれた木製パレットが破壊され蓋が開けられた。これらの被害を受けて捕獲檻が設置され、8月25日に駆除となった。
- 4) 8月21日、釣り場(瀬渡し場)の一つであるペキン川河口において、利用者が持ち込んだ食べ物や釣った魚がヒグマに奪われる被害が特に酷いと報告された。原則として、レクリエーション利用のためのヒグマの駆除(あるいはそれに準ずる対応)はしない事になっていたが、特に人に対して至近距離まで接近して来る事例が報告された同所においては、異例の追い払い対応が行われた。
- 5) 8月22日、栄町で深夜に一般住宅裏の小屋から塩マス、干し魚がヒグマに奪われる被害が発生した。翌日の夜にも同じ場所に出没していることが自動撮影カメラによって明らかになったが、その後、姿を現すことがなかった。当該個体は、8月25日に有害捕獲された個体と体格が類似していたため、同一だった可能性がある。
- 6) 9月10日、岬町モセカルベツ地区で夜間に水産加工場付近でヒグマが目撃され、対応中に残渣が食べられる被害が発生した。威嚇弾による追い払いを実施した結果、同じ場所に出没することはなかった。
- 7) 9月15日、オッカバケ川右岸の水産加工場の屋内作業場にヒグマが侵入する被害が発生した。作業場の出入口は破壊され、屋内に保管してあった鮮魚が食べられた。これらの被害を受けて捕獲檻が設置され、翌16日に有害捕獲となった。
- 8) 10月22日、幌萌町の水産加工場で発砲スチロールゴミが荒らされる被害が発生した。現場検証の結果、残渣も食べられていることが明らかになり、被害は9月末頃から続いていたことが判明した。当該個体は、日中にも出没していることからそのまま捕獲体制となり、同日中に敷地に侵入しようとしていた当該個体が有害捕獲となった。
- 9) 11月15日、春日町の漁業番屋の倉庫にオス成獣ヒグマが侵入しサケトバを食べられる被害が発生。侵入時にシャッターと窓ガラスが破損。当該個体は後日に駆除となった。

平成27年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

(評価者：科学委員会)

モニタリング項目	No. 23 シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査		
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所		
対応する評価項目	Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。		
モニタリング手法	生息地点が確認されているつがいに対し、幼鳥識別のための標識を装着。死亡・傷病個体は発見時に原因調査。		
評価指標	つがい数、繁殖成功率（標識幼鳥数など）		
評価基準	つがい数：遺産登録時の数がおよそ維持されていること 繁殖成功率（繁殖成功つがい数／確認つがい数）：遺産登録時の繁殖成功率がおよそ維持されていること		
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	<ul style="list-style-type: none"> ・つがい数に変化は無く、いずれの生息地も継続的に維持されており、生息は安定している。（ただし、全て人工巣箱を利用） ・繁殖成功率については変動が見られるが、現時点では大きな問題とは考えられない。 		
今後の方針	モニタリング継続。		

※「今後の方針」には、評価を踏まえた対応方針（例：現状のモニタリングを継続、モニタリング項目の追加、〇〇事業の実施 等）を記載

※※幼鳥に標識をつける時期は巣立ち直前の時期であり、標識をつけた幼鳥は確実に巣立ちをすることが考えられることから、ここでは標識幼鳥数＝巣立ち幼鳥数と見なすことができる。

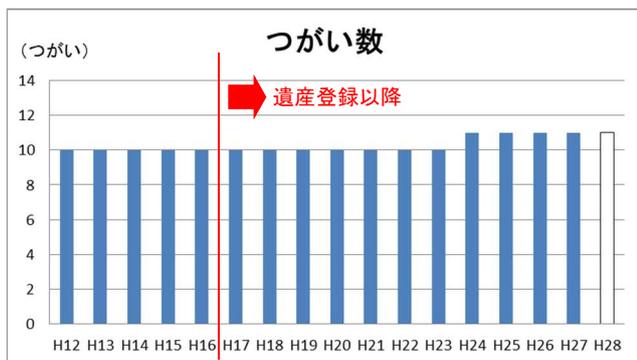
1. 調査・モニタリングの手法

シマフクロウ保護増殖事業（給餌・生息状況調査・巣箱設置等）において、全道で繁殖が確認されたシマフクロウのつがいを対象として、ヒナに標識（環境省足環及びカラーリング）を装着し、個体識別、性別、来歴等の個体情報の収集、繁殖状況の把握等を行っている。当該調査の知床世界自然遺産地域におけるデータを利用して、評価項目「Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。」を評価するもの。

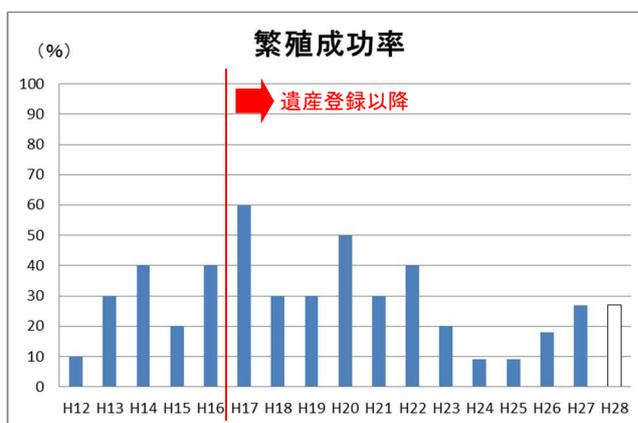
2. 調査・モニタリングの結果

○平成27年度現在、遺産地域において確認されている11つがい（各生息河川につき2～3個の巣箱を設置している）を対象に繁殖の有無を確認し、繁殖が確認された個体については、巣立ち間近のヒナを捕獲し、標識を装着。

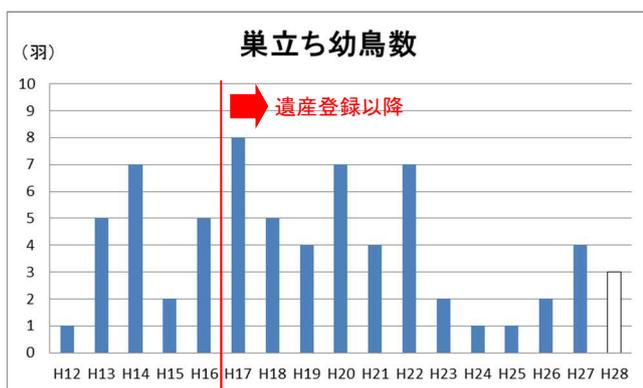
○平成27年度は、遺産地域内において4羽（内訳：2つがいより各1羽、1つがいより2羽）のヒナに標識を行い、繁殖成功率（繁殖成功したつがいの割合。ただし、幼鳥に標識を装着した時点を繁殖成功とみなす）は27%であった。（下図参照）



(出典：環境省)



(出典：環境省)



(出典：環境省)

3. 評価

○遺産地域における遺産登録以降の確認つがい数は10つがい程度で安定しており、いずれの生息地も継続的に維持されている（消失していない）。

○繁殖成功率については変動が大きいですが、自然採餌下での繁殖成功率は全道的に年変動が大きいことが知られている。全道における自然採餌下での繁殖成功率は平均27%程度であり、平成17年の遺産地域での60%という数値は非常に高い値と言える。また、デ

平成27年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

一タの母数が10つがい程度と少ないため、数値が安定しないことが挙げられる。繁殖成功率に負の影響を及ぼす要因としては、繁殖期の暴風雪の影響、クロテンによる捕食（対策実施中）があり、その他に、既知つがいの未知営巣地での繁殖のほか、つがいの高齢化、個体数飽和による競争の影響の可能性が考えられる。

- なお、遺産地域外も含めた知床地域において、現在は全道のつがい数の約半数に相当する約20つがい（繁殖成功実績が無いつがいも含めると30つがい程度と考えられている）が確認されており、最も安定した個体群と言える。
- 以上を踏まえると、遺産地域におけるつがい数は安定しており、繁殖成功率の変動については現時点では大きな問題とは考えられず、引き続き、遺産地域外の動向も含めてモニタリングを継続していくことが重要と言える。

(評価者：科学委員会)

モニタリング項目	No. 24 年次報告書作成による事業実施状況の把握		
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道、知床世界自然遺産地域科学委員会		
対応する評価項目	Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 Ⅳ. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	関係機関、各種団体による事業実施状況等の把握。		
評価指標	関係機関、各種団体による事業実施状況		
評価基準	参考資料（基準なし）		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針			

※「今後の方針」には、評価を踏まえた対応方針（例：現状のモニタリングを継続、モニタリング項目の追加、〇〇事業の実施 等）を記載

1. モニタリングの目的

地域との連携・協働と順応的な管理を推進するため、知床の自然環境や社会環境についての最新の状況や、行政機関等による取り組みを毎年度、年次報告書としてとりまとめている。

2. 調査・モニタリングの手法

環境省、林野庁、北海道開発局、北海道が平成 27 年度に実施した事業を知床世界自然遺産地域年次報告書として、とりまとめた。

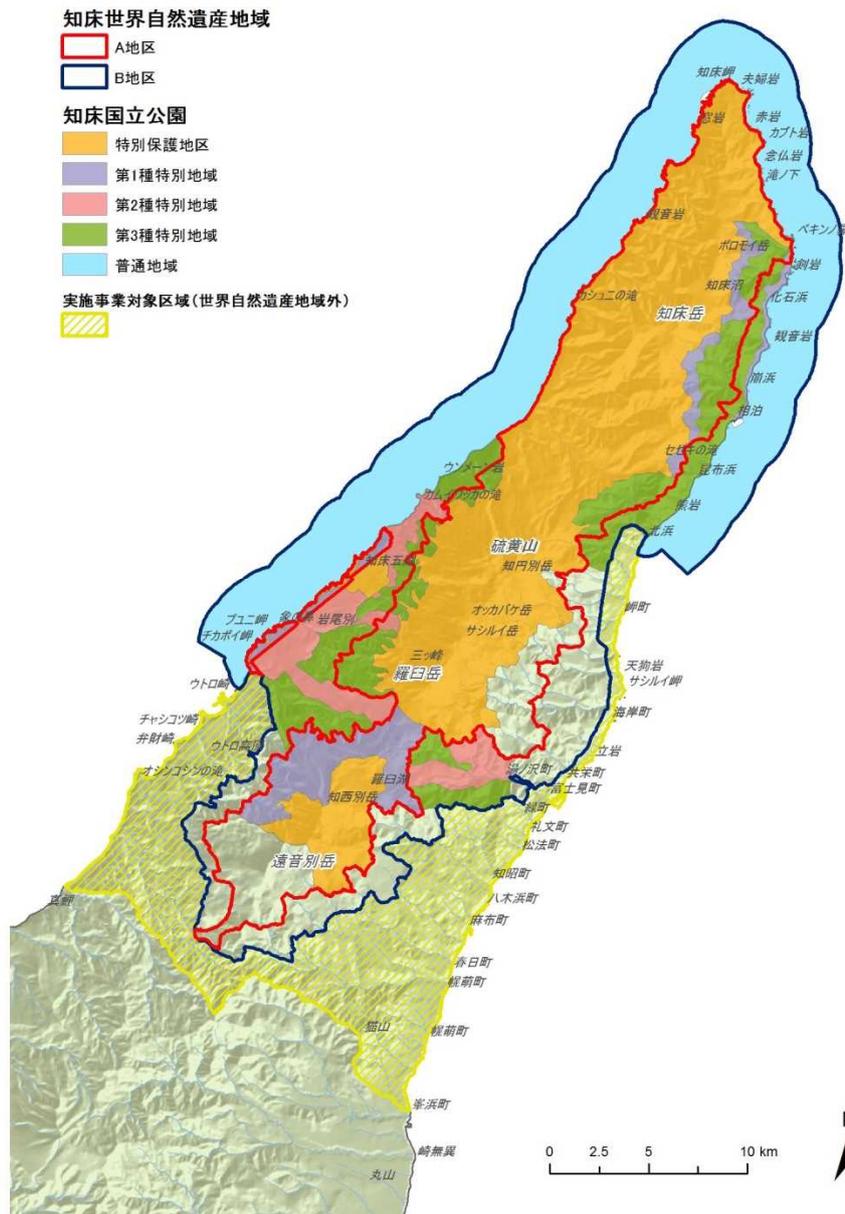


図 1 : 対象範囲地図

3. これまでの経緯

「平成 21～26 年度 知床世界自然遺産地域年次報告書」を作成。知床データセンターで公開を行っている。

4. 評価年度の調査結果

「平成 27 年度 知床世界自然遺産地域年次報告書」を作成。

(評価者：科学委員会)

モニタリング項目	No. 25 年次報告書作成等による社会環境の把握		
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道、知床世界自然遺産地域科学委員会		
対応する評価項目	Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 Ⅳ. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	人口動態、産業活動などに関する各種統計の整理		
評価指標	人口、産業別就業者数		
評価基準	参考資料（基準なし）		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針			

※「今後の方針」には、評価を踏まえた対応方針（例：現状のモニタリングを継続、モニタリング項目の追加、○○事業の実施 等）を記載

1. モニタリング項目の位置付け

地域との連携・協働と順応的な管理を推進するため、管理対象地域の把握をする必要があるという観点から、長期に人口動態及び産業動態についてモニタリングを行っている。

2. 調査・モニタリングの手法

平成 27 年度の斜里町及び羅臼町の人口、産業別就業者数を調べた。

※産業別就業者数については、国勢調査の結果が公表され次第、更新予定。

3. 調査・モニタリングの結果

○人口

斜里町

年次	世帯数 (戸)	人口 (人)	人口		出典
			男 (人)	女 (人)	
昭和 60	5,346	15,955	7,844	8,111	国勢調査 (10/1)
平成 2 年	5,202	15,182	7,393	7,789	国勢調査 (10/1)
7	5,450	14,634	7,235	7,399	国勢調査 (10/1)
12	5,636	14,066	6,986	7,080	国勢調査 (10/1)
17	5,703	13,431	6,707	6,724	国勢調査 (10/1)
18	5,519	13,312	6,530	6,782	住民基本台帳 (3/31)
19	5,539	13,207	6,487	6,720	住民基本台帳 (3/31)
20	5,516	12,986	6,358	6,628	住民基本台帳 (3/31)
21	5,530	12,846	6,292	6,554	住民基本台帳 (3/31)
22	5,759	13,045	6,517	6,528	国勢調査 (10/1)
23	5,540	12,634	6,200	6,434	住民基本台帳 (3/31)
24	5,575	12,532	6,148	6,384	住民基本台帳 (3/31)
25	5,612	12,476	6,107	6,369	住民基本台帳 (3/31)
26	5,551	12,251	6,010	6,241	住民基本台帳 (3/31)
27	5,562	12,086	5,947	6,139	住民基本台帳 (3/31)
28	5,612	11,935	5,884	6,051	住民基本台帳 (3/31)

出典：斜里町

羅臼町

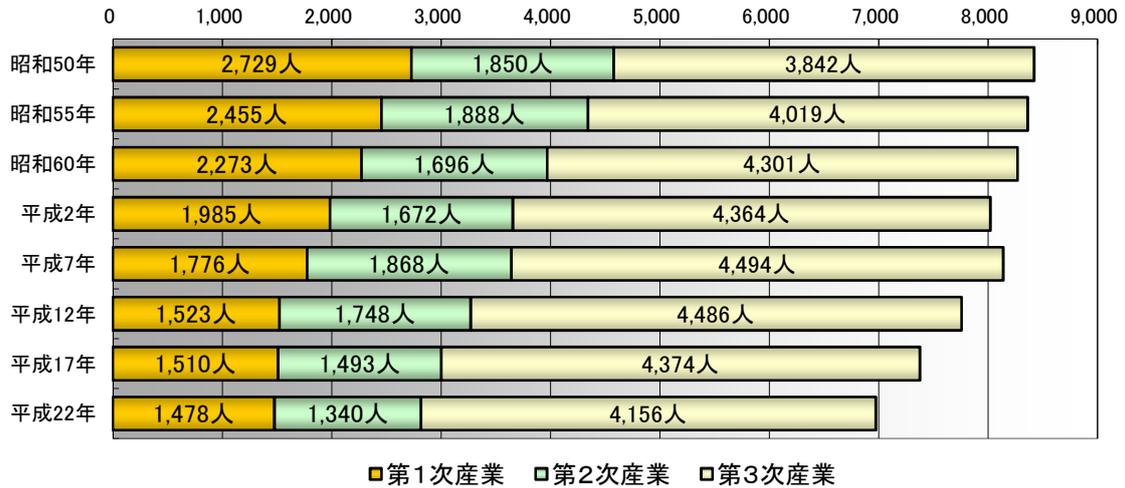
年次	世帯数 (戸)	人口 (人)	人口		出典
			男 (人)	女 (人)	
昭和 60	2,566	8,065	4,227	3,838	国勢調査 (10/1)
平成 2 年	2,409	7,805	3,948	3,857	国勢調査 (10/1)
7	2,254	7,471	3,717	3,754	国勢調査 (10/1)
12	2,355	6,956	3,499	3,457	国勢調査 (10/1)
16	2,230	6,731	3,338	3,393	
17	2,231	6,650	3,295	3,355	国勢調査 (10/1)
18	2,217	6,497	3,229	3,268	住民基本台帳 (3/31)
19	2,189	6,356	3,159	3,197	住民基本台帳 (3/31)
20	2,158	6,202	3,090	3,112	住民基本台帳 (3/31)
21	2,150	6,101	3,034	3,067	住民基本台帳 (3/31)
22	2,166	6,024	2,988	3,036	国勢調査 (10/1)
23	2,146	5,908	2,927	2,981	住民基本台帳 (3/31)
24	2,155	5,878	2,914	2,964	住民基本台帳 (3/31)
25	2,161	5,774	2,859	2,915	住民基本台帳 (3/31)

26	2,156	5,639	2,787	2,852	住民基本台帳 (3/31)
27	2,182	5,543	2,736	2,807	住民基本台帳 (3/31)
28	2,127	5,377	2,646	2,731	住民基本台帳 (3/31)

○産業別就業者数

斜里町

各年10月1日



※第1次産業：農林漁業

資料：国勢調査

※第2次産業：鉱業、建設業、製造業

※第3次産業：情報通信、運輸、卸売・小売、金融・保険、不動産、飲食・宿泊、医療・福祉
教育・学習支援、複合サービス、サービス、公務等

産業分類	事業所数 (ヶ所)	従業員数 (人)	割合(従業員数)
全産業	707	5,208	100.00%
農林漁業	29	249	4.80%
鉱業	4	12	0.20%
建設業	58	548	10.50%
製造業	38	764	14.70%
電気・ガス 熱供給・水道業	2	20	0.40%
運輸業	25	509	9.80%
情報通信業	3	9	0.20%
卸売・小売	154	1,108	21.30%
金融・保険業	11	94	1.80%
不動産業	65	100	1.90%
学術研究・専門 技術サービス	19	59	1.10%
飲食店・宿泊業	125	859	16.50%
生活関連サービス業・娯楽業	66	218	4.20%
教育・学習支援業	17	58	1.10%
医療・福祉	27	329	6.30%
複合サービス業	8	94	1.80%
サービス業	56	178	3.40%

資料：平成24年度経済センサス - 活動調査

羅臼町

■産業別15歳以上就職者数の推移（平成22年国勢調査より）											
	平成12年			平成17年			平成22年				
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女		
総数	3,999	2,408	1,591	3,732	2,210	1,522	3,404	2,048	1,356		
第1次産業	1,729	1,135	594	1,553	1,044	509	1,497	1,022	475		
農業	38	22	16	28	16	12	29	17	12		
林業・狩猟業	3	3	0	4	4	0	7	7	0		
漁業	1,688	1,110	578	1,521	1,024	497	1,461	998	463		
第2次産業	778	486	292	666	379	287	591	340	251		
鉱業	10	9	1	9	8	1	5	5	0		
建設業	323	276	47	192	166	26	155	131	24		
製造業	445	201	244	465	205	260	431	204	227		
第3次産業	1,491	787	704	1,513	787	726	1,313	684	629		
卸・小売業	496	207	289	574	207	367	318	141	177		
金融・保険業・不動産業	46	19	27	38	21	17	38	20	18		
運輸・通信業	114	91	23	99	82	17	104	84	20		
電気・ガス・水道業	1	1	0	3	2	1	4	2	2		
サービス業	644	311	333	614	316	298	678	289	389		
公務	190	158	32	185	159	26	171	148	23		
分類不能の産業	1	0	1	0	0	0	3	2	1		

産業分類	事業所数 (ヶ所)	従業員数 (人)	割合 (従業員数)
全産業	388	2,365	100.0%
農林漁業	84	728	30.8%
鉱業	1	6	0.3%
建設業	19	157	6.6%
製造業	32	380	16.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0.0%
運輸業	11	105	4.4%
情報通信業	1	1	0.0%
卸売・小売	83	406	17.2%
金融・保険業	4	22	0.9%
不動産業	35	50	2.1%
学術研究・専門技術サービス	2	4	0.2%
飲食店・宿泊業	64	205	8.7%
生活関連サービス業・娯楽業	21	55	2.3%
教育・学習支援業	0	0	0.0%
医療・福祉	9	85	3.6%
複合サービス業	3	70	3.0%
サービス業	19	91	3.8%

資料：平成24年度経済センサス - 活動調査